

第22 回接続委員会の議論を踏まえた質問事項

- ① 第22回接続委員会において検討されたエントリーメニュー案について、各社の事業実態や今後の事業展開に照らし、利用可能性などのお見解をお聞かせ頂きたい。

→NTT 東西、ソフトバンク、イー・アクセス、関西ブロードバンド、KDDI、ケイ・オプティコム、JCOM

<回答>

我々地域の DSL 事業者が求めているのは、DSL 同様に 1 ユーザ単位で競争可能な環境の整備と DSL 同等の接続料の設定です。従って、総務省殿の光接続料をドライカット接続料と同水準とする考え方は非常に重要な観点であり、地域の DSL と同様の低廉なサービス提供には必須です。

一方、今回のエントリーメニューに関しては、当初 1 年間は安価に設定されるものの、3 年間の光接続料の支払総額は変わりません。光接続料をドライカット接続料と同水準とするためには、一芯あたり東日本エリアで 3.1 ユーザ、西日本エリアの場合 3.9 ユーザを獲得する必要があります。これは、「非競争地域」という大手通信事業者ですら参入のない需要の少ない地域にも関わらず、東日本エリアでは、NTT 東日本殿(3.2 ユーザ)と同等、西日本エリアでは、NTT 西日本殿(2.8 ユーザ)以上のユーザ数を獲得しなくてはいけないということになります。分岐数を埋めることが困難である地域の DSL 事業者に対して、この目標は極めて困難であり実現性に乏しいと判断せざるを得ません。なお、この数値は、光配線区画の適正化のみでは解決しえないと考えます。

また、「非競争地域」のみに限定して導入するという点についても、例えば既に 1 事業者でも参入している地域(栃木・新潟・長野等)では地域の DSL 事業者はエントリーメニューすら使えず、到底参入できるものではありません。これは、むしろ、競争地域においても少数事業者の寡占を許すような方策であるといえ、我々地域の DSL 事業者にとっては害にすらなる案になると考えます。

このような理由により、提示されたエントリーメニュー案は地域の問題の解決策にはなっていません。

我々地域の DSL 事業者は、多様なブロードバンドサービスの提供により地域のユーザ利便向上、地域の活性化に大きく貢献してきました。接続委員会においては、公平な競争環境の構築だけではなく、更なる地域活性化・地域でのブロードバンド普及という視点をより追求した議論をしていただきたいと考えます。

実現すべきは、NTT OSU 共用等の実現方法に関わらず、DSL 同様に 1 ユーザ単位で競争可能な環境の整備と DSL 同等の接続料の設定です。

なお、各案に関する見解を以下に述べます。

【OSU 専用エントリー】

- OSU 専用方式のエントリーメニューは、実質一芯貸しと同様の方式であり、現状から何ら進展がないものと考えます。単なる支払期限の先延ばしでしかありません。

【コンソーシアムエントリー】

- コンソーシアム方式のエントリーメニューには以下問題が存在していると考えます。
 - 地域の DSL 事業者は幹事会社にはなれず、どこかの幹事会社の出現を待つしかない
 - 幹事会社があった場合においても、地域の DSL 事業者のエリアを対象としてくれるかの保証がない
 - 接続義務がないため、交渉力の弱い地域の DSL 事業者は、メニュー化されても活用できない可能性が高い

以上